

63  
2015  
Spring



在学生のワタシ★アクション!

# 地域交流で見つけた課題を 「学生の力」で解決!

特集01 地域とともに歩みながら  
未来づくりを支えていく。

特集02 中村慶久学長の退任に寄せて

ラボ★アクション!

キャンパスフレンズ・JRCサークル

KENDAI NEWS

ケンダイ広報局

卒業生のワタシ★アクション!

63  
2015  
Spring



卒業生のワタシ★アクション!

## 空港のグランドスタッフとして いつも笑顔でお客様をサポート。





「人工知能」に出会って以来、小方先生は研究者としての物語を紡いでいる。

# ラボ★アクション!

## 先生たちの研究の流儀

地域のシンクタンクであり、多彩な学部を擁する岩手県立大学には、個性豊かな先生がたくさんいる。彼らがどんな想いを抱き、日々どんな研究に取り組んでいるのか。その横顔に迫ってみたい。



「いろんな世界を教えたい」と、映画素材を授業に取り入れることも。

知識ベースから自由に物語をつくる研究は、世界を見てもおそろしく他にはありません」と話す小方先生。今ではまだまだ幼稚ながら物語の文章を作れるようにはなったが、進むほど課題が見えて来るのが研究の道。「コンピュータのように、正解だけを求めたらダメ。人間らしく『まあ、いいか』と思えることが、長く続ける秘訣かな」と笑う。

岩手県立大学に着任して10年。メディア論や哲学といった科目も受け持ち文理融合の教育を進める小方先生は、学生に対し「粘り強いし真面目だけど、『未知への好奇心』をもっと磨いてほしい」と思っている。

「だから私の授業では、学生たちが『未知の世界』に触られる機会をなるべく提供したいと思っています。『へえ、こんな世界があるんだ』と好奇心のドアを開いてくれる学生が、1人でも増えたらうれしいですね。」

**子どもの頃から抱いていた「物語づくり」の夢を「人工知能」でかなえたい**

中学で源氏物語などの古典文学、ロシアの文豪・ドストエフスキーを読破。「本ばかり読んでいた」という小方先生は、子どもの頃から「物語をつくりたい」と考えていた。けれど、小説家や学者になるのは少し違う気がする…。漠然とした思いを抱えたまま、大学は「違う世界を見るため」社会科学部を選び、計量政治学や法社会学を学んだ。就職活動では、同級生と同じように出版社を受験したが「他人が書くものをサポート

トするより、自分がつくる側でいたい」と中断。そしてなぜか、コンピュータシステムの会社にシステムエンジニアとして入社した。人間に比べて「驚くほど単純」なコンピュータの世界。つまらなさを感じ始めた頃、当時コンピュータ分野でブームになっていた「人工知能」に出会った。

「中でも、言葉操る思考のプロセスをコンピュータ言語で処理しようとする取り組みは、言語学や哲学など文系研究者も参加していて、面白かったですね」と小方先生。やがてこの出会いが、子どもの頃から抱いていた「物語づくり」へとつながっていく。

数年後、小方先生は仕事を辞め、人工知能分野の第一人者がある筑波大学大学院に入学した。研究テーマは、人工知能などの技術を使った「物語生成システム」。以来25年以上、先生は同じテーマで研究を続けている。

「カテゴリを限定した物語生成の研究はあっても、文学の理論を背景とした膨大な

## DATA

### ソフトウェア情報学部 小方 孝 教授

神奈川県川崎市生まれ。1983年に早稲田大学社会科学部卒業後、社会人経験を経て、筑波大学大学院経営・政策科学研究科に入学。修士課程修了後、東京大学大学院工学系研究科に進み博士(工学)を取得する。山梨大学工学部で助教授を務めた後、2005年に岩手県立大学に着任。今年から来年にかけて日本と米国で2冊の学術書を出版予定。好きな文学者は三島由紀夫、吉本隆明、ジョイス、近松半二など。歌舞伎とジャズを愛する。



「ボラセン」は今の自分のルーツ。この経験を、地域づくりにいかしたい



## STUDENTS Voice

自分のやりたいことや好きなことを見つけ、その実現に向かって頑張っている学生たちがいる。彼らが何を思い、どんな行動を起こしているのか。一人ひとりの「ワタシアクション!」をご紹介します。

「DoNabe net」のメンバーたちと、次の活動に向けた打ち合わせ

法律に興味があり、もともとは法学部志望。しかし進路を具体的に考えるうちに「もっと広い視野で法学を学びたい」と思い始め、岩手県立大学総合政策学部を選びました。

「学生ボランティアセンター(ボラセン)」に代表されるように、県立大学は学生主体の活動がとても盛ん。私もボラセンのメンバーとして、様々な活動をしてきました。そのひとつが、リーダーを務めた「DoNabe net」。鍋会での交流を通じて「地域の困りごと」を探り、解決のためのアクションへとつなぐプロジェクトです。私は雪かきを代行する「スノーバスターズ」や、自転車地域をパトロールする「チャリパト」にも関わりましたが、これもDoNabe netをはじめとする地域との交流から生まれた活動。住民の方々からいただく感謝の言葉や温かいお返しに、喜びとやりがいを感じました。

ボラセンでの活動は、私に「地域と関わる面白さ」と「学生の力の可能性」を教えてくれ、またそれは大学での学びをより深めることにもつながりました。大学のある滝沢市を就職先に希望したのも、ボラセンで培った実践力と、総合政策学部で学んだ「法律と社会との関わり」を生かし、市職員としてまちづくりに貢献したいと考えたからです。

県立大学は、学生の「やってみたい」を後押ししてくれる場所。大学とボラセンに出会っていなかったら今の自分はきっとありません。4年間で得た多くの宝物を胸に、卒業後も地域に「恩返し」していきたいです。

## ワタシ★アクション!

総合政策学部 4年 齊藤 一真 Kazuma Saito  
1992年生、秋田県上小阿仁村出身。大館鳳鳴高校卒業。総合政策学部で「法律と社会との関わり」を学ぶ。ボラセンの中心メンバーとして活躍する一方、総合政策を学ぶ全国の学生が集まり、様々な社会問題について考える「政策・情報 学生交流会」にも積極的に参加。運営スタッフや分科会のチューター(講師役)も務めた。



...See You Next Action!



# 地域とともに歩みながら 未来づくりを支えていく。

6年間、岩手県立大学を牽引してきた中村慶久学長が、この春退任の時を迎える。  
東日本大震災など、未曾有の災害が起こった混乱の中で、常に地域に軸足を置きながら、  
被災地の大学が果たすべき役割を示してきた。“地域とともに歩む大学”として、  
本学が歩んできた6年間の道のりを振り返りながら、今後の針路を探りたい。



川前地区のパトロールを行うボラセンの「チャリパト隊」。学生の力が地域に活力をもたらす。(2012年広報誌53号)



住民の体調管理を中心に、被災地ニーズをリサーチしながら必要な支援に取り組む「カッキー'S」。(2012年広報誌52号)



昨年度から始まった「地域創造学習プログラム」で、旧大槌町役場を訪れる学生たち。(2014年7月)



「復興girls」は名前を「復興girls&boys」に改め、様々なイベントで被災地商品を販売している。(2013年東京でのイベント)



いわてGINGA-NET「春銀河2014」の様子。被災地でのボランティアも4年目、今年も多くの学生が参加した。



**地域支援を通じて育まれる、  
学生たちの自主的な活動**

「ボランティア活動を通して地域の人の役に立ちたい」とそんな思いを抱く学生たちが、地域のボランティアニーズと学生を結ぶ場づくりを、大学に働きかけた。その熱意に応える形で県立大学は、平成20年に「学生ボランティアセンター（通称ボラセン）」を設立。以来、ボラセンは学生たちによって運営され、地域と大学の橋渡しの存在となっている。

このボラセンに象徴されるように、県立大学が教育の理念のひとつとしているのが「自律的な人間を育てること」。中村慶久学長が着任した平成21年以降、そのスタンスはより明確になり、あらゆる場面で学生の活発な活動が見られるようになった。

このような学生の自主性や行動力をさらに後押しすることになったのが、平成23年に発生した東日本大震災である。発生直後から被災地に飛び込み、支援活動にあたったのが、ボラセンの学生メンバーたち。彼らは大学の教職員らの支援のもと、全国の学生ボランティアと被災地での復興支援活動を結びつける「いわてGINGA-NET」を発足。仮設住宅を中心とした「コミュニティ支援」を行い、災害発生時における学生ボランティアの滞在拠点整備・運営、若者のマンパワーと被災地ニーズをつなぐ仕組みを構築した。この活動には延べ1万5千人以上の学生が参加し、全国でも注目される取り組みとなった。

**地域の学びを教育に活かし、  
地域を支える人材を育てる**

復興支援活動では、「いわてGINGA-NET」だけではなく、多くの学生たちが支援プロジェクトを立ち上げた。『復興Girls』や『カッキー'S』などはそのひとつ。大学は学生が自ら企画・実行していく活動を支援する「I P U Eプロジェクト」で後押しした。

『復興Girls』は、沿岸部の被災企業の商品販売や被災地の原材料を活かした商品企画などを通して、仕事の復興の手助けを行うグループ。「社会人基礎力グランプリ2012」で準大賞を受賞するなど、その取り組みが評価された。一方、看護学部生による「カッキー'S」は、毎月仮設住宅を訪れ、サロン活動を中心に被災者の心と健康をサポート。血圧測定や体操・健康講座の開催など、大学で学んだ知識を活かしながら、被災地ニーズの変化に対応した支援を継続的に行っている。

学生による地域活動が広がりを見せる中で、大学では社会のニーズに応える人材育成を目指し、平成25年度に「高等教育推進センター」を設置。基盤教育の強化に取り組んでいるほか、全学的に地域を学ぶ教育として、「地域創造学習プログラム」をスタートさせた。これは主に初年次の学生が地域に赴き、地域の現状や課題に触れることで能動的な学びへのきっかけを作ることが狙い。本学では、地域を学ぶことを教育に組み入れることで地域を担う人材の育成を強化していく。



岩手県立大学  
中村 慶久 学長

いわてGINGA-NET 代表  
八重樫 綾子 さん

震災直後から支援活動を行い、全国の学生ボランティアと被災地をつなぐ「いわてGINGA-NET」プロジェクトを立ち上げ、現在はNPO法人となった同団体の代表として活躍する卒業生の八重樫綾子さん。就任時から八重樫さんらの活動を見守ってきたという、中村慶久学長。長い付き合いの2人が、それぞれの立場から、学生が地域で学ぶ意義や大学が果たす役割について語り合った。



岩手県立大学学長  
中村 慶久 学長

中村学長 八重樫さんたちは率先して行動する学生でしたが、就任した当時は全体的におとなしい学生が多かった。もっと活気あふれる大学にしたいと思ひ、学生たちに体育祭の開催を呼びかけたんです。すると、学生た

八重樫さん ボランティアでお邪魔した時も、地域の人はとても好意的です。「地元」の学生「だ」と言つと、他大学の学生より信頼感や安心感を抱いてくれるように感じます。

中村学長 確かに、地元にいる卒業生がなごぎ役を担ってくれるのは、県立大学ならではの、県内にもっと根を張り、県民から信頼される大学になっていかなければなりませんね。

地域での交流や体験こそが  
学生の身になる学びとなる

中村学長 八重樫さんとの出会いは、県立大学に就任して29日目の時。大学周辺の川前地区の皆さんと鍋を囲んで交流する「Donabene」に誘われたのが最初でした。

八重樫さん 中村学長や教職員の皆さんに、私たちがやっている活動を知ってほしくてお誘いしました。Donabeneが終わった後、住民の方々と肩を組んで2次会に行かれた姿を覚えています(笑)。  
中村学長 あれ以来、住民の皆さんと親しくなつて、大学も含めた川前地区の活性化について相談するようになったんですよ。

地域と学生をつなぐことで、  
できることが見えてくる

中村学長 県立大学の場合、教育研究活動の調査で地域に入ることが多いのですが、教員主導だと学生は「やらされている」感が抜けない。学生の主体性を育むためには、早い段階から地域に対する意識を高めることが重要です。八重樫さんにも加わってもらっている「地域創造学習プログラム」は、地域を学ぶ大事な体験。できるだけ県内各地に何つて、学生にいろんな体験をさせたいですね。

八重樫さん 県立大学の強みは、県内各地で活躍する卒業生たちが大学と地域のつなぎ手になってくれること。ボランティアの受け入れや研究協力にしても、もっと卒業生のコミュニケーションを活かしていけば、地域のためにできることが広がってくるはずですよ。



いわてGINGA-NET 代表  
八重樫 綾子 さん

中村学長 問題は体験のきっかけをどう作るか。4年前に始めたIPUEプロジェクトは、学生たちが自分で企画して実行する取り組みですが、大切なのはプロセス。悩んだり壁にぶつかったりしながらゴールに向かう体験が、学生の成長につながります。

中村学長 地域創造学習プログラムの時でも、地域の人はすく歓迎してくれますね。八重樫さん 若者を育てていくことが自分たちの将来につながる、と考えている人が増えているように思います。だから学生たちを喜んで迎えてくれるし、学生たちの発想を新鮮だと受け入れてくれる。一方、学生たちも地域の人から多くのことを学び、吸収する。そんなWin・Winの関係構築することが、とても大切だと思います。

[2009⇒2015の歩み]

2009年

- 4月 中村学長就任
- 5月 滝沢市との相互連携協定  
滝沢市IPU第1イノベーションセンター開所
- 10月 宮古短期大学部 20周年記念式典  
川前パトロール隊(ボラセン)活動開始  
第1回体育祭

2010年

- 4月 いわて学開講(いわて高等教育コンソーシアム)
- 10月 チャリパト隊(ボラセン)活動開始 ❷

2011年

- 3月 東日本大震災発生
- 4月 第二期中期目標、中期計画期間スタート  
地域政策研究センター設置  
災害復興支援センター設置  
被災学生への経済的支援、進学支援等実施  
IPU-Eプロジェクト開始  
IPU Campus Attendant発足
- 5月 復興girls\*結成 ❸
- 7月 いわてGINGA-NETプロジェクト開始 ❶
- 9月 i-MOS運用開始(4月設置)
- 10月 IPU就業サポーターズネットワーク設立
- 11月 カッキー's活動開始 ❹

2012年

- 2月 復興girls\* 社会人基礎育成グランプリ準大賞授賞
- 6月 地域イノベーション戦略「いわて環境と人にやさしい次世代モビリティ開発拠点プロジェクト」採択 ❺

2013年

- 4月 高等教育推進センター設置  
NPO法人いわてGINGA-NET設立 ❶
- 9月 第1回研究成果発表会実施
- 11月 宮古市及び宮古観光協会との包括協定

2014年

- 4月 社会福祉学部学科再編  
地域政策研究センター復興加速化プロジェクト開始
- 5月 滝沢市IPU第2イノベーションセンター開所 ❷  
東北インターンシップ推進コミュニティ設立(幹事校)
- 6月 地域創造学習プログラム実施 ❹

※❶～❸は4～6ページの写真参照



「いわて環境と人にやさしい次世代モビリティ開発拠点」プロジェクトの成果報告会の様子。



地域政策研究センターの復興研究の一つ、「ICTによる見守りシステムプロジェクト」(2011年広報誌49号)



平成26年度に開設された滝沢市IPU第2イノベーションセンターの開所式。

「ひとつの研究成果を  
地域の未来につなげていく」

学生による地域貢献活動の一方で、本学が重点的に取り組んできたのが地域と連携した研究活動である。本学は設立以来、県立大学・盛岡短期大学部・宮古短期大学の四学部一短大の専門分野を活かし、各地域の課題解決に向けた様々な研究活動を展開。平成23年度からは、産業振興や地域課題などの研究を推進するため、「いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジセンター(通称i-MOS)」と「地域政策研究センター」を設立した。

関連企業等も多数進出。i-MOSと本学ソフトウェア情報学部、そして様々な民間企業との連携や共同研究が加速化している。「地域政策研究センター」は、産学官連携により、地域課題の解決に取り組む県民のシンクタンク的な存在だ。復興をリードするため『震災復興研究部門』を立ち上げ、被災地の行政、企業、組合、地域団体などを支援。新たに平成26年度には、大規模かつ複数年にわたって取り組む「復興加速化プロジェクト」を立ち上げ、「ICTを活用した孤立防止と生活支援型コミュニティづくり」や「水産加工流通業の競争力強化と雇用の拡大」について、学部横断的な体制を強化して、復興研究を進めている。

このような復興支援を始めた様々な研究活動を通して、地域とともに歩む県立大学。ひとつの研究成果も、学生たちの自主的な活動も、未来の地域づくりにつながっている。



# Campus Friends

Vol.3

宮古短期大学部 JRC サークル

県立大学のサークルや同好会、  
学生会活動を紹介する「キャンパスフレンズ」。  
生き生きと活動する学生たちの様子をチェックしてみよう。



## DATA

### 宮古短期大学部 JRCサークル

平成21年に学生5名と顧問の田中教授で発足、平成24年6月に学生赤十字奉仕団に認定。震災後は活動趣旨に賛同する学生が増え、平成26年度は45名が所属。震災前から地域の皆さまとの交流活動のほか、日本赤十字社や宮古市社会福祉協議会など関係機関からの依頼も多く、献血補助や被災者支援など地域密着の活動を進めている。学長奨励賞3度、平成26年宮古市社協より会長感謝状。



被災地での研修を通じ、ボランティアニーズを探ることも大事な目的。

田老地区と山田町で研修を行い、被災者の体験談を聞き、津波被害の痕跡をたどった。地域をサポートする一方で、震災を学び、語り合い、被災地の今を発信していく。ここにいる自分たちにしかできないことを模索しながら、彼らは地域の明日を見つめている。

このような支援活動と並行し、昨年度から有志「うみねこ」の中心となって取り組んでいるのがプロジェクト「震災を学ぶ会 in みやたん」だ。これは、被災地の現地調査や被災者との交流などを通じ、震災を学び、できることを考えていくのが狙い。私は大槌町出身ですが、改めて震災を学ぶことで当時のことを客観的に見られるようになりました。学生の立場から感じることで、学べることを大事にしたいです」と、話すのはメンバーの芳賀諒太さん(2年)。昨年は宮古市

自分たちができる活動とはなにか。震災を学びながら被災地を支えていく。岩手県沿岸地域の唯一の高等教育機関として、地域の復興を後押しする宮古短期大学部。様々な活動に取り組み中で、学生が主体となり、ボランティア活動を行っているのがJRCサークルだ。  
震災前は、地域住民と鍋を囲む交流会や、高齢者施設への訪問などを中心に活動。震災後も、日本赤十字社や宮古市社会福祉協議会と連携しながら、仮設住宅での傾聴活動、子どもたちへの学習支援、市内のイベント補助など、様々な支援活動を展開している。「サークル活動を通して、宮古市の皆さんやイベントの主催者など、様々な人たちと知り合えたのが大きな収穫。出会いを重なる中で、自分で考え、行動できるようにになりました」と、下村鷹也さん(2年)は自分の成長を実感している。





特集 02 Features02 中村学長の退任に寄せて

# 6年間ありがとう! 中村慶久学長

平成21年に就任してから6年、この3月に中村慶久学長が大学を退任される。  
歴代の学長の中で、初めての岩手県出身者であり、  
人一倍、岩手という地に深い思入れを抱いておられた中村学長。  
ここでは、ゆかりの深い人々からのメッセージと中村学長の大学への思いをご紹介します。



「率先して地域と触れ合う  
学長の姿が忘れられません」

山本 正徳氏 宮古市長

中村慶久学長、6年間ありがとうございました。中村学長は平成21年4月から県立大学長に、私も同年7月から宮古市長に就任しました。以後、私は経営会議メンバー、宮古短期大学部協会の会長として、微力ながら同校をサポートする立場に立たせていただいております。平成24年12月、同校の「復興サポートオフィス田老」を田老地区内に開設いただいたほか、学長自ら幾度も宮古市を訪問いただくなど、積極的に地場企業や地域文化と触れ合うその姿は、まさに同校が基本方針に示す「地域社会に貢献する大学」を実践するものでありました。学長退任に際し、一抹の寂しさを感じておりますが、中村学長が引き継ぎ、築き上げてきた岩手県立大学がさらに飛躍することを祈念して感謝のメッセージといたします。



「とても気さくな人柄で  
なんでも相談できました」

川村 尚雄氏 川前自治会長

中村慶久学長に初めてお会いしたのは、就任間もない時に開催したDoNabe netの日。とても気さくな人だなと思い、それ以来、いろいろなことを相談するようになりました。高齢者のために大学のプールを貸してくれないかと相談したり、大学のサポートで滝沢駅前に防犯拠点となるポリボックスを作ったり、お互いに協力し合いながらいい関係を築いてきました。昨年、川前地区に自主防災会を立ち上げた時に、AKBのフォーチュンクッキーを踊ろうという話になりまして、中村学長にも踊っていただき、盛り上げてもらいました(笑)。現在は、学生や先生たちが集えるような屋台村や空きアパートを活用した学生寮など、新たなことを模索中です。中村学長が退任されるのは残念ですが、また一緒に何かできればと思っています。



「体育祭でのお茶目な姿が  
かわいらしかったですね」

佐々木 絢子さん 体育祭実行委員長(総合政策学部・3年)

中村慶久学長の発案で始まった体育祭も、平成26年度で6回目を迎えました。ポケットマネーで用意していただいた学長杯を始め、中村学長には毎年参加していただき感謝しています。体育祭では、普段は見られない顔に出会えるのも楽しいハプニング。ある競技でアッチ向いてホイ!で勝敗を決めたんですが、中村学長がやっている姿がとてもお茶目かわいらしかったです(笑)。私たちが手一杯で、運営が滞っていると、「みんなで手伝おう」と率先して声をかけてくれますし、すぐお世話になりました。一度しか会っていないけど必ず顔を覚えてくれるので、いつも見守ってくださっているのを感じています。退任されてもこれきりではなく、またお会いしてお話できるといいですね。

「ずいぶん静かな大学だな、学長として就任した時の私の第一印象です。周囲には商店街も飲食店もなくて、とても学園都市とはいえない(笑)。学生たちはみな素直で真面目、だけど活気がないように見えた。これは何かしなくては、と思いましたね。」

私は長年、東北大学工学部で研究室を率いていましたから、学生に對しても、成果を出すために指導するという意識が強かった。でも、県立大学の学長になってからは、「学生と一緒に」大学をつくるという意識に変わりました。就任早々、学生に「体育祭を開催しないか?」と声をかけて、一緒に参加したり、さんさ踊りの練習に顔を出してハッパをかけた。学生と交流している時が一番楽しかったですね。

大学として取り組んだことも、いろいろありました。東日本大震災後に復興に取り組む地域政策研究センターを設置したり、学生の就業力をつけるためにI-PUREプロジェクトを始めたり。国内にとどまらず海外で活躍できる力を育むために、英語力を強化する教育カリキュラムの改革にも着手しました。私の時いた種が、いずれ芽を出し、大きな花を咲かせてくれるはず。その証拠に、おとなしいと思っていた学生たちも、最近ではだいぶ元気が出てきましたから(笑)。

県立大学はいま、新たな変化を遂げる時期に来ていると思います。しかし、まだまだ地域には浸透しきれていない。県立大学を知らない人はたくさんいます。もっと地域に根ざして、県立大学のファンを増やしていかなければいけない。県民から「一番愛される大学」になるべきだと思いますね。



## 学長に質問!

- Q 大学の好きな風景や場所は?**  
A 学長室から見る岩手山が素晴らしい。青空に映える残雪の岩手山の美しさはひときわです。それと、ドイツウヒもお気に入り。上から見る県大モールの眺めも好きですね。
- Q 趣味は何ですか?**  
A 旅に出かけることかな。前は学会に便乗して、いろんな場所に家内同伴で行っていました。その際に必ず撮るのが、列車の写真や車窓の写真。昨年、岩手を走ったSL銀河や新型の新幹線はもちろん撮りましたよ!
- Q 好きな食べ物は?**  
A 肉が好き。家内から制限されているので、見つからない所でこっそりステーキなんかを食べています(笑)。
- Q 退任後はどうされますか?**  
A しばらくは岩手でゆっくり過ごします。復興支援などで何かできることがあれば、動き出すかもしれませんね。



## 平成26年度「学長奨励賞」授賞式

2月20日、平成26年度の学長奨励賞授賞式が行われました。学長奨励賞は学業・研究活動、社会活動等で顕著な功績をおさめた学生に授与される賞です。今年度は11名の学生及び8つの学生団体に授与されました。中村学長からは「来年度もこの賞を受賞できるように尽力していただくとともに、後輩の学生にもどんどん活動を広めてほしい」とお祝いと激励の言葉が送られました。

### ソフトウェア情報学研究科

蛇穴 祐稀  
国際会議CIVC2014「Best Presentation Award」受賞 他

### ソフトウェア情報学部

笹木 信吾  
第35回U-22プログラミング・コンテスト「首都圏コンピュータ技術者賞」受賞 他

### 総合政策学部

香木 なつみ  
「駅からハイキング」を企画、実施しJR東日本盛岡支社より感謝状を受賞  
菊池 のどか  
東日本大震災の被災体験を通じて、全国各地での防災啓発活動を実施

### 盛岡短期大学部生活科学科

遠藤 綺花  
東北広域振興局実施の第2回学生ファッションデザイン作品制作部門で入賞  
三船 沙恵子  
東北広域振興局実施の第2回学生ファッションデザイン作品制作部門で入賞

### チームIWAPU-EX3

高橋 仁基、橋本 拓観、紺野 良太、菅原 翔太、大内 一揮、大島 聡史、阿久 貴裕  
評価型国際ワークショップNTCIR-11にて音声データの検索タスクに対して2部門で1位

### 弓道部

菊池 ひかり  
第69回国民体育大会弓道競技成年女子遠的優勝

### 水泳部

佐藤 千紜  
第7回北部学生選手権水泳競技大会女子100m背泳ぎ第1位、女子200m背泳ぎ第1位 他  
村上 勇輝  
第7回北部学生選手権水泳競技大会男子100m平泳ぎ第1

## 人事情報

退任(平成27年3月31日付け)  
副理事長兼学長 中村 慶久

就任(平成27年4月1日付け)  
副理事長兼学長 鈴木 厚人

### 【教員の異動等】

退職(平成27年3月31日付け)

看護学部 助教 及川正広  
看護学部 助教 小笠原智恵子  
社会福祉学部 教授 中尾美知子  
社会福祉学部 教授 咲間まり子  
ソフトウェア情報学部 教授 石亀昌明  
ソフトウェア情報学部 教授 菅原光政  
ソフトウェア情報学部 講師 瀬川典久  
総合政策学部 教授 小針 司

盛岡短期大学部 教授 クリスティン・ウインスカスキー  
盛岡短期大学部 教授 本間義規  
盛岡短期大学部 講師 アンデス・カールキビスト  
宮古短期大学部 教授 宮井久男  
宮古短期大学部 准教授 松石泰彦

採用(平成27年4月1日付け)

看護学部 講師 原 瑞恵  
看護学部 助教 柴田周子  
看護学部 助手 木村 怜  
社会福祉学部 准教授 齋藤昭彦  
総合政策学部 講師 平井勇介  
総合政策学部 講師 千國亮介  
盛岡短期大学部 講師 堀内容子  
盛岡短期大学部 教授 モルヴィ・バーン・マーティン  
宮古短期大学部 助教 中川仁美



### 将棋部

小山 怜央  
第70回全国学生名人戦優勝 他  
中川 滉生  
第43回全国支部名人戦東日本大会準優勝

### さんざん踊り実行委員会

盛岡さんざん踊りに参加し、5年連続最優秀賞を受賞

### 地域創造学習プログラム企画学生

本学「地域創造学習プログラム」にて構成等その学習内容の検討段階から参画し、当日もリーダーとなって活動

### しまぐプロジェクト

企業等3者との協働による、被災地支援寄付金付きボールペンの開発・販売プロジェクトへの取組

### うめえもん届け隊実行委員会

沿岸部での支援活動で地域特産菓子をパッケージ販売することを企画、実施

### たきざわ検定実行委員会参加学生

「たきざわ検定」に実行委員として参画し、第1回及び第2回のたきざわ検定及び事前の対策講座を実施等

### じえじえといわて

国際交流イベントを一から企画し、国際交流基金・日中交流センターの「中国ふれあいの場 大学生交流事業」に応募、採択され実施

### 宮古短期大学部JRCサークル

継続的な被災者支援活動を行ってきたことに対し、宮古市社会福祉協議会会長感謝状を受賞



### 学生ファッションデザイン」で2作品が入賞!

「第2回学生ファッションデザイン募集」(東北広域振興局主催)で、応募総数200点の中から盛岡短期大学部1年の遠藤綺花さんの「海の夜」、三船沙恵子さんの「夏を楽しむ」が、作品制作部門で入賞! 2月21日に二戸市で開催された「北いわて学生デザインファッションショー」で、デザイン画を元に北いわてに集積する縫製業者が製作したドレスがお披露目されるとともに、表彰式が行われました。※写真左から3番目「夏を楽しむ」、右から5番目「海の夜」



### 高校生がウインターセッションで大学の学びを体験

冬休み期間を利用して高校生が大学の講義を体験する「高大連携ウインターセッション」が12月25、26日に行われました。県内5大学で実施しているもので、本学では県内各地から約300名の高校生が参加。初日の25日は、あらかじめ受講希望していた学部へ移動し、各学部の特色を活かした講義に熱心に聞き入っていました。また2日目には、学部ごとに学んだ内容を発表する感想発表会を行い、講堂ステージでのプレゼンも体験しました。



### 80チーム480名の学生がICTで地域課題解決に挑戦!

1月28日、ソフトウェア情報学部の「プロジェクト演習」全体発表が行われました。これは企業や地域の提供した地域課題に対し、ICTを活用して解決案を考える授業で、1~3年生の全員が受講する必修科目となっており、平成25年度の経済産業省「社会人基礎力を育成する授業30選」にも選ばれています。発表会では80を超える学生グループが、自分達の工夫をこらした提案をポスターセッションで発表。すぐれた発表を行ったグループは、課題提供者から図書カードや滝沢市の物産セットなどの賞品とともに表彰されました。



らは若者展示ブースに7団体(全11団体中)、ほか1団体の計8団体が参加。本学の学生が開発に関わった、いわて若者交流ポータルサイト「Co.Nex.Us(コネクサス)」をはじめ、地域づくりや復興支援、ボランティア活動などの紹介を行いました。そのほか、「地域の魅力発見」をテーマに、基調講演や達増知事を交えたトークセッションなども行われました。



### 地域に学ぶ「地域創造学習プログラム」報告会

「平成26年度地域創造学習プログラム報告会」を1月7日に本学の講堂で行いました。このプログラムは、教員や卒業生等のアドバイスのもとで学生達が主体となって1泊2日のフィールドワークの行程を組み、被災地をはじめとした県内各地に赴いて地域について学ぶものです。平成26年度は宮古市、大槌町、釜石市、西和賀町、盛岡市・滝沢市の全5コースを実施。参加・企画学生による各コースの実施報告が行われ、その後、学生と地域の方による座談会が行われました。



### 先輩たちと語り合う「ミライトークカフェ」

卒業後、社会人として活躍している先輩たちと、将来のこと、学生生活のことなどを語り合う「ミライトークカフェ」が1月31日に学食3階で開催されました。本学同窓会が主催したもので、4回目となる今回は県内外で活躍する各学部のOB・OG28名と、約100名の学生が参加。就職セミナーや企業説明会ではなかなか聞くことができないような「本音」の話など、気軽にフリートークを楽しみ、自身の進路の参考にしていました。



### 学生が取り組んだプロジェクトの活動報告会

平成26年度のIPU-Eプロジェクト活動報告会が2月5日に行われました。「IPU-Eプロジェクト(略称:Eプロ)」とは、学生たちの就業力育成を目的に、学生主体のプロジェクト活動の費用を助成することにより支援を行うという取組みです。今年度は滝沢キャンパスで7団体、宮古キャンパスで1団体の計8団体が承認され活動をしてきました。地域おこしや被災地支援など、それぞれの団体が取り組んだ多彩な活動をポスターセッション形式で報告。発表後には他団体の学生や教員などの質問に答えました。

### いわての若者の交流イベントに本学から8団体が参加

2月15日、岩手県主催の「いわて若者会議~若者の交流イベント~」が盛岡市のNanak(ななっく)で開催されました。昨年度に引き続き開催されたイベントで、本学からは若者展示ブースに7団体(全11団体中)、ほか1団体の計8団体が参加。本学の学生が開発に関わった、いわて若者交流ポータルサイト「Co.Nex.Us(コネクサス)」をはじめ、地域づくりや復興支援、ボランティア活動などの紹介を行いました。そのほか、「地域の魅力発見」をテーマに、基調講演や達増知事を交えたトークセッションなども行われました。



# This is My Action!

OB&OG Voice

大学で学んだことを自分の糧としながら、様々な分野で活躍する県立大学の卒業生たち。それぞれの職場や地域で頑張っている卒業生の「ワタシアクション!」をご紹介します。

## 編集後記

今回、退任される中村学長の特集制作にあたり、大学の6年分の写真をチェックしました。その中で印象的だったのは、学生の活動報告や体育祭での学生とのじゃんけん勝負、さんさ踊りのパレードで先頭を歩きながらなど、たくさんの笑顔が見つかったことです。特集2では、そんな学長の姿を、本人や地域の方、学生へのインタビューで紹介しています。本学を愛し、学生の活動を様々な形で後押しし、見守ってくださった中村学長の人柄が伝わればと思います。(企画室・三輪陽子)

## IPU公式アカウントについて

岩手県立大学では、お知らせやイベント情報などについて、よりリアルタイムに発信をするためTwitter公式アカウント[@IPU\_official]で情報提供を行っています。さらに、インターネット上での情報発信力をより一層強化するために、Facebook、YouTube等の活用も行っていきます。是非、Twitterアカウントの「フォロー」、Facebookページの「いいね!」によりコンテンツをご覧ください。



〒020-0693 岩手県滝沢市菓子152-52 TEL.019-694-2000 FAX.019-694-2001  
[URL]http://www.iwate-pu.ac.jp/ [e-mail]management@ml.iwate-pu.ac.jp

- [看護学部]
- [社会福祉学部]
- [ソフトウェア情報学部]
- [総合政策学部]
- [盛岡短期大学部]
- [宮古短期大学部]



「いつも笑顔で楽しく」が仕事のモットー。お客様に顔を覚えてもらえるのが一番うれしいという。

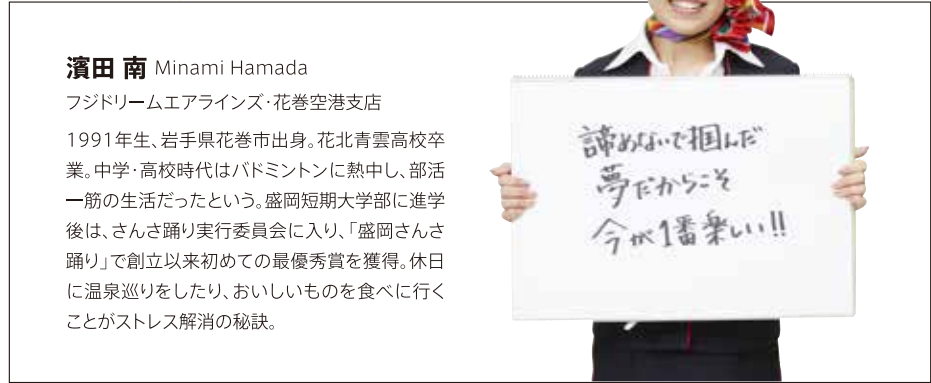
私と空港の出会い、中学生の時。国際交流プログラムでアメリカ研修に出かけるために、初めて成田国際空港に行ったんです。そこは、多くの外国人が行き交う非日常の世界。旅への高揚感が漂う独特の雰囲気が残りに、「いつか空港で働きたい」と憧れを抱くようになりました。

盛岡短期大学部の国際文化学科に進学したのも、夢を追いかけるためです。アメリカ文化を学び、1年次の冬には2週間のアメリカ研修に参加。言葉もわからなかった中学時代と違い、明確な目的を持って臨んだ研修は、とても有意義なものになりました。

大学で英語力を磨く一方で、仙台の専門学校に通いながら、航空会社への就職活動を開始。早い時期から活動したのですが採用されず、やむなく別業界の会社に就職したんです。でも、どうしてもあきらめきれなかった私は、仕事の傍らフジドリームエアラインズの中途採用試験に挑戦。夢だった航空会社の仕事をつかむことができました。

現在は、いわて花巻空港勤務のグランドスタッフとして、航空券の発券や荷物の受託などを行う搭乗手続や搭乗案内などを担当。多くのお客様と接する仕事ですので、常に笑顔で心掛けて、気持ちよく出かけていただけるようにしています。この春で3年目ですが、一つひとつの仕事の精度を高め、専門知識をもっと勉強することが当面の目標。そして何よりも、お客様の気持ちに寄り添ったサービスで、空の旅をサポートしたいと思っています。

## ワタシ★アクション!



...See You Next Action!

岩手県立大学の魅力を発信すべく日々活動する学生団体、キャンパスアテンダント(CA)。そんなCAたちがお送りする、県大生の県大生による県大生の今を伝えるためのコーナーです。 (\*´▽`\*)

# ケンダイ★広報局

学生★企画



## 一人暮らしちゃんねる

今回は県大生の一人暮らしに注目  
代表で2人の学生に取材しました! (\*´▽`\*)

Q1→一人暮らしのメリット Q2→毎日のご飯事情 Q3→一人暮らしの失敗談

ソフトウェア情報学部  
3年・しめじ



A1→帰る時間など、なんでも自由なところ  
友達を家に呼びやすい

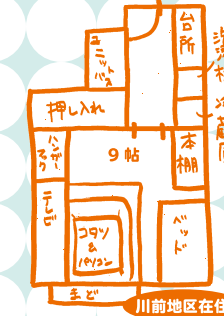
A2→朝は無し、昼は購買、夜はバイトの賄いが  
チャーハンが大好きなのでバイト先で  
余ったたまねぎや

にんじんを持ってきて自分で作っています!

A3→ごみ捨てを不真面目にしていたら、ハ工が大量発生して、バイト帰りに3時間ほど格闘



ベッドにいる、じよん(しろくま)と愉快的仲間たちです!



家賃 32,000円



ディスプレイが2台もあるとは、さすがソフト男子!

〈記者から一言〉  
男子なのに部屋にぬいぐるみがあって、かわいらしい一面も♡  
ご飯もしっかり作っているところが驚き!

清潔感あふれるお部屋は、看護女子の鑑だね!



こだわりのインテリアはないけれど、ポイントは物を置きすぎず、空間が広い部屋が落ち着くのでそのような部屋にしています(片付け、掃除も楽です!笑)

A1→自分の都合で行動可能  
自由が確保されている  
家事の力がつく

A2→基本的に自炊  
たまに友達と外食

A3→電気をつけたまま寝てしまえば朝という事態勃発



看護学部2年・しょうちゃん



〈記者から一言〉  
手作りご飯おいしいそう♡  
私も食べたくなりました☆  
家事のしやすさを考えた部屋のつくりになっているところなど、さすがです!!

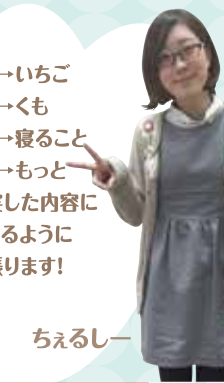
## キャスト

もうすぐ春ということで、春ファッションでキメてきました☆多 ((o((≧▽≦)))



A1→甘いもの  
A2→絶対マシーン  
A3→みんなでご飯を食べること  
A4→県大生の今をたっぷりお届けしていきたいです!

みさきち



A1→いちご  
A2→くも  
A3→寝ること  
A4→もっと充実した内容にできるように頑張ります!

ちえるしー



A1→トナルドダック♡  
A2→お化け屋敷  
A3→ショッピング  
A4→楽しい情報をたくさんお届けします☆

イカロス



A1→チョコ  
A2→生の魚介類  
A3→食べることに  
A4→楽しいをモットーに頑張ります!

りかりか

Q1→好きなもの Q2→苦手なもの Q3 好きなこと Q4 新年度への意気込み